

**** 抗生物質の適正使用 ****

抗生物質は、小児科の重要なお薬の一つです。
保護者の皆様も、基本的な知識を持ちましょう。

Q1 感冒（かぜ症状）に抗生物質は必要ですか？

A1 いいえ、原則として必要ありません。

- ①抗生物質は、細菌性の疾患を治療する薬です。
- ②感冒のほとんどはウイルス性の疾患であり、抗生物質の効果はありません。
発熱が、すぐに抗生物質の使用に結びつくものではありません。

Q2 急性下痢症に抗生物質は必要ですか？

A2 いいえ、原則として必要ありません。

- ①急性下痢症の多くはウイルス性の疾患で、抗生物質の効果はありません。
- ②細菌性の下痢症（たとえば、食中毒のサルモネラ菌や病原性大腸菌など）においても抗生物質の使用は必ずしも推奨されません。

Q3 どういう場合に抗生物質が必要ですか？

A3 細菌性の炎症が、疾患の原因である場合に有効です。

- ①溶連菌の咽頭炎、中耳炎、細菌性の気管支炎、肺炎などの治療に必要です。
- ②細菌性の下痢症では、症状が重たい場合には抗生物質の使用が考慮されます。
- ③病気の始まりはウイルス性の疾患でも、経過中に合併症が起きた時は、抗生物質が必要となる場合があります。

Q4 なぜ、抗生物質の正しい使用が推奨されますか？

A4 不適切な使用により、耐性菌（薬の効かない菌）が生まれやすくなります。

- ①耐性菌によって病気が起きた場合、有効な治療ができなくなります。
- ②それぞれの病気の治療によく適合した抗生物質を、正しいタイミングで、正しい量を正しい時期使用することが大切です。